

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	a16①全学級にて「主体的・対話的に学ぶ」の具現化に向け、個を大切に、日々児童が主体的に学ぶ授業改善に取り組んでいく。②重点研究テーマ、「算数」の研究を通して、自ら課題を発見し、主体的に問題解決していく力を育成していく。また、ICTの活用を図り、授業改善につなげていく。	①算数の授業を通して、子どもたち自身で課題を発見し、友達や先生との対話から学び解決することができる学習を展開した。子どもたち自身がやってみようと思えるような学習展開にすることで、主体的に学習に取り組めた。②算数の学習で学んだことを活かし、他の教科でも導入や学習プリント、ICTの活用など工夫し授業ができるようになった。	A
豊かな心	a17①インクルーシブな視点を意識できる研修を設け、一人ひとりが自己肯定感、自己有用感を育てるよう学校経営・学級経営でできるような力を育成する。	外部講師を招いて、特別支援の研修を行い、教員の意識を高めることにつながった。また、Y-Pアセスメントの活用を促し、自己肯定感や自己有用感を高めるために児童一人ひとりに寄り添った活動を日常の中や授業の中で取り入れることができていた。	B
健やかな体	a18①日々の体育学習の充実を図るとともに、自分から運動に親しみ、体力向上に取り組む姿勢を育成する。②自ら生活習慣の改善、健康増進や健康な生活を送ろうとする意識と実践力を高めるため、食育や保健教育、学校保健委員会の充実を図っていく。	低学年では、運動が好きなき子を育てるために、多様な運動経験を意識的に行った。中学年・高学年では、自分のめあてをもち、友達と見合いながら、技能を高めていく楽しさを感じる授業の充実を担任が意識的に行うことができていた。また、児童委員会活動による、食育や保健教育も年間を通じて行った。	B
協働的な学び	a19①全学級にて「自ら課題を発見し、学び合いを通して解決することができる児童の育成」の具現化に向けて、受け身の姿勢で知識・技能を獲得するのではなく、自分から課題を発見し、その課題を解決するための方法を自分自身との対話・ものをを使って・今までの経験を生かして、そして周りにいる人たちの力をかりて解決する力を育成する。②生活・総合の授業を通して、「まち」と「ひと」とつながりを活かした教育活動を展開する。	①分からないことをそのままにするのではなく、自分で解決していくという姿勢を大切に。一人で解決できないときは、周りにいる友達、教師などに聞いてみる力をさらにつけていきたい。(コミュニケーション能力の向上)②生活・総合の学習では、神橋のまちにつながる歴史的価値のある材を見つけやすい教材を開発した。(杉山神社・蝸虫・地域の行事に参加など)また、生活・総合で学んだことを他学年に発表することで、子どもにも地域のよさが伝わり、来年度は、保護者にも発表することを通じて、地域とのつながりを広げていきたい。	B
いじめへの対応	a2①学校いじめ防止基本方針に基づき、年3回以上のアンケートや全員面談を確実に実施し、児童の状況把握を行い、些細な変化も見逃さない体制づくりをする。②隔週での学年主任会を定期的に行い、組織的対応力を常に高めることを行う。③基本方針に基づき、保護者・関係機関との連携を推進する。	①毎月実施したアンケートにより、職員が児童の変化に気が付きやすい体制を整えることができた。②定期的ないじめ防止対策委員会を開催すると同時に、毎週の打合せでの児童情報共有も行い、組織的対応力を常に高めることができた。③基本方針に基づき、保護者・関係機関との連携強化を図った。	A
人材育成・組織運営(働き方)	a21①5年次以下の職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって人材育成のための校内研修を行っていく。②2週に1回、教務会及び学年主任会を行い、ミドルリーダー等が全体を通して学校運営していく場を設定する。③ICTを活用した事務の効率化や働き方改革委員との情報の共有化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革につなげる。	①校内のミドルリーダーが講師を担うことで、研修後も講師役の職員が相談に乗る姿や声を掛け合う姿が見られた。メンターチームの職員だけでなく講師役のミドルリーダーの授業力向上にもつながった。②教務会や学年主任会の場でミドルリーダーの意見を吸い上げられるよう、さらに改善を進めていきたい。③教務会や学年主任会の記録の共有にタブレット端末を活用したことで、伝達時間の削減、正確な情報の伝達につながった。また、Googleドライブの共有化により、資料のやり取りがスムーズとなるなど、ICTを活用することで働き方改革を進めることができた。	A
特別支援教育	a22①適切な特別支援教育を行うために、関係機関との連携や研修を実施していく。②チャレンジルームで個に合わせた指導を充実させる。個の特性を生かした学級経営を図る。③教室、言語環境等においてユニバーサルデザイン教育を理解し、学校全体の環境整備にあたる。	①研修の機会を充実させることや、関係機関との密な連携、SCやSSWとの情報共有を図ることなどを通じ、適切な特別支援教育に向けて組織力を高めた。②チャレンジルームを活用し、個に合わせた支援を充実させ、学びの個別最適化を図った。③ユニバーサルデザインに関する研修を生かし、学校全体の環境整備に努めた。	A
児童生徒指導	a23①「かみはしルール」を家庭・学校が共有し、指導・支援を行うとともに、子ども達の考えも取り入れた見直しも、代表委員会との連携の中で図っていく。②教科担任、交換授業を全学年で実施し、学年児童全員に関わりながら指導にあたる。③打ち合わせ・職員会議・校内委員会にて、情報交換を適時行い、共通した指導・支援にあたる。	①かみはしルールの内容が精選され、児童や家庭と共有することができた。職員も、安心して指導に当たることができた。②教科担任、交換授業を全学年で実施し、学年児童全員に関わりながら指導にあたる。③職員会議だけでなく毎週の打合せなどの機会を捉えた情報共有により、児童に対して一貫した指導や支援を行うことができた。	B
安全教育	a24①避難訓練、防災訓練、不審者対応訓練を毎月実施し、自分の命や安全を自分の力で守れるよう、知識や判断力を身につけていく。②訓練の振り返りを活かし、マニュアル等について、随時改善を行っていく。	①計画通り、3種類の非常時に対し全ての避難方法、避難経路を体験させることができた。予告なしの避難訓練では、それまで訓練で得た知識をもとに、自分たちの判断で適切な行動をとることができていた。②訓練後は毎回職員からの意見を集約し、改善点について協議した。	A
地域学校協働活動	a25①六中ブロック学校運営協議会の効果的に円滑な運営に取り組み、地域や保護者に向けて情報を公開する。②地域の歴史、六角橋商店街、岸根公園等を学習に活かし、地域の教育力を活用しながら体験的な学習を充実させるとともに、多くの人のふれあいを通し、まちや人に親しみをもつことができるようになる。	①六中ブロック学校運営協議会では、学校・地域の取組や子どもの姿を情報共有し、地域全体で子どもを育てる意識を共有した。②生活科・社会科の学習で地域の歴史・六角橋商店街・岸根公園等を学習に活かしながら体験的な学習を充実させるとともに、多くの人のふれあいを通し、まちや人に親しみをもつことができるようにつなげていきたい。	B
ブロック内評価後の気づき	授業研では、「9年間で育成を目指す資質・能力を具体化し共有する」～夢や希望・目標をもてる子どもを育成する～をテーマに設定し、合同で研究・協議を行った。各校の情報交換と、小中の連携ができた。教務主任会では、行事、その他各校の情報交換をした。様々な取組があったが、会議の短縮化など取り入れられるところは取り入れていきたい。行事が少しずつコロナ前に戻りつつある。精選してできる所は見直し、新しい持続可能な形にしていきたい。	授業研などを通して学習の充実を図るとともに問題を発見したときに早期に対応し、誰もが安心して豊かに過ごせる学校を目指し取り組んできた。地域ボランティアの方に1年生や家庭科の授業サポートを行っていただき、落ち着いた学校生活を送れる基盤や安全に学習を行う体制を整えることができた。その他、企業や地域とのつながりをもち問題解決学習につながる授業を展開することができたので今後も継続していきたい。	ブロック内評価後の気づき
学校関係者評価	地域行事への児童の参加がふえたことは大変よかった。学校と家庭・地域が一体となって子どもの成長を見守ることができた。防災訓練も地域と学校と一緒に進めたこともよかった。今後も継続していきたい。スクールサポーター制度を発足させたので、PTAとしても協力できることはしていきたいと考えている。学校が行っている取組も発信してもらえるとよい。支援の必要な児童の増加に伴い、特別支援教室の充実を図ってきたい。	地域行事への児童の参加が活発になり、学校や家庭・地域が一体となって子どもの成長を見守ることができた。復活した地域行事への児童の積極的な参加も増えた。今後も継続していきたい。スクールサポーター制度やPTA活動により学校と協力して行事などが運営できたことはよかった。来年度も継続するとともに、協力できる活動をふやしていきたい。PTA活動を活性化させていきたい。	学校関係者評価

中期取組目標振り返り	コロナ禍でこれまで色々な制限が少しずつかけられてきていたが少しずつ日常に戻りつつある。見直しを行いながら日常を取り戻せたい。総合などで地域と連携した授業作りが今後の課題である。生活・総合などで地域の特色を生かした授業作りをおこなってきたい。地域に向けた情報発信・連携をしていく必要がある。
------------	--

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	b1①教育課程全体で育成を目指す資質・能力の意識をした具体的な授業づくりをめざす。そのために、各学年のつながりを重視するために、研究会の進め方を工夫する。②昨年度と同じ教科の研究のため、今まで使用していた教材や学習プリントを活用し、さらにICTを活用した方法を見つけていく。	①算数の授業を通して、子どもたち自身で課題を発見し、友達や先生との対話やICTを活用するなどして解決する方法を見出すことができた。授業展開を主体的に取り組める環境にする工夫ができた。②協議会では、思考ツールを活用した。思考ツールの種類や活用方法を教師自身が学び、授業でも活用することができた。	B
豊かな心	b2①外部講師を招いた研修を計画し、職員の人権意識を高めていくようにする。②互いの違い、多様性を認め合ったり、自己肯定感・自己有用感を高めたりし、誰もが安心して学校経営・学級経営ができるような力を育成する。	①コミュニケーションを高める研修を積み重ねてきたことにより、学級経営や学年運営に生かせるような知識やスキルを身に付けることができた。②互いの違いや多様性を認め合えるような学校風土を道徳の授業や人権週間の取り組みなどからも作っていくことができてきている。	A
健やかな体	b3昨年度に引き続き、①日々の体育学習の充実を図り、運動を楽しみ、運動に親しむ子の育成を図る。②児童委員会活動を通して、食育や保健教育、体力づくりの充実を図る。	①低学年では、運動が好きなき子を育てるために、多様な運動に親しんだ。中学年・高学年では、自分のめあてをもち、友達と学び合いながら、技能を高めていく楽しさを感じる授業の充実を担任が意識的に行うことができていた。②児童の委員会が企画した活動を通して、全校で食育、体力づくりの向上の機会を設けることができた。	B
協働的な学び	b4①地域で体験的に学ぶ機会を多く設ける。校内のボランティアや材一覧を活用し、他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら、一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。②アンケートや自分作りパスポートを利用して、自分自身についての変容や成長を自覚し、友達とも共有するなど他者理解に努める。	①神橋キャスト一覧を作り、各学年、教科で児童のサポートを依頼した。特に、家庭科の学習では、一人ひとりに丁寧な支援でき、校外学習時には、児童の見守りを安全管理に協力してもらうことができた。②毎月アンケートを実施し、児童の変化をすぐにとらえることができた。その都度、職員で共有し、対応することができた。Yプログラムを利用し、子どもたち同士の協働的な学びを設けた。	A
いじめへの対応	b5①学校いじめ防止基本方針に基づき、年3回以上のアンケートや全員面談を確実に実施し、児童の状況把握を行い、些細な変化も見逃さない体制づくりをする。②隔週での学年主任会を定期的に行い、組織的対応力を常に高めることを行う。③基本方針に基づき、保護者・関係機関との連携を推進する。	①毎月、生活やいじめに関するアンケートやYPAアセスメントの実施が、いじめの早期発見につながった。②Y-Pプログラムや道徳の授業を行い、いじめ防止・解決・再発防止に向けて取り組んだ。③毎週の打合せでの児童情報共有も行い、学校全体で見守る体制をつくることができた。	B
人材育成・組織運営(働き方)	b6①昨年度に続き、5年次以下の職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって人材育成のための校内研修を行っていく。②教務会及び学年主任会の前に、予めミドルリーダー等の意見を吸い上げる機会を積極的に設け、ミドルリーダー等が全体を通して学校運営していく場を設定する。③ICTを活用した事務の効率化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革につなげる。	①昨年度に続き、5年次以下の職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって人材育成のための校内研修を行っていく。②教務会及び学年主任会の前に、予めミドルリーダー等の意見を吸い上げる機会を積極的に設け、ミドルリーダー等の学校運営への意識付けをした。③ICTを活用した事務の効率化を図ることができた。	B
特別支援教育	b7①適切な特別支援教育を行うために、関係機関との連携や研修を実施していく。②チャレンジルームで個に合わせた指導を充実させる。個の特性を生かした学級経営を図る。③教室、言語環境等においてユニバーサルデザイン教育を理解し、学校全体の環境整備にあたる。	①適切な特別支援教育を行うために、外部機関との連携や講師を招いて研修を実施した。②チャレンジルームで個に合わせた指導を充実させる。個の特性を生かした学級経営を行うために研修や情報共有を定期的に行う。③教室、言語環境等においてユニバーサルデザイン教育を理解し、学校全体の環境整備にあたる。	B
児童生徒指導	b8①「かみはしルール」を家庭・学校が共有し、指導・支援を行うとともに、子ども達の考えも取り入れた見直しも、代表委員会との連携の中で図っていく。②打ち合わせ・職員会議・校内委員会にて、情報交換を適時行い、共通した指導・支援にあたる。	①「かみはしルール」をもとに、全教員が同じ意識で指導・支援を行うとともに、子ども達の考えも取り入れた見直しも、代表委員会との連携の中で図っていききたい。②打合せや校内委員会での情報共有や教科担任・交換授業を行うことで、多くの職員で児童の指導と見守りを行うことができた。	B
安全教育	b9①避難訓練、防災訓練、不審者対応訓練を毎月実施し、自分の命や安全を、自ら守るための知識や判断力が身につくような指導を充実させる。②交通安全教室、高学年の着衣泳体験、校外学習での歩き方指導など、様々な機会をとらえて、児童が安全に生活できるよう指導していく。	①放送を聞き、素早く想定に応じた避難、退避行動をとる姿が見られるようになった。しかし、訓練に対する慣れが見られ、真剣さに欠ける児童が見られる。事前・事後指導の内容を充実させる。安全に対する意欲を高めたい。②校外学習の機会が増え、指導する機会が増えたため、児童の意識が高まった。	B
地域学校協働活動	b1①六中ブロック学校運営協議会の効果的に円滑な運営に取り組み、地域や保護者に向けて情報を公開する。②地域の歴史、六角橋商店街、岸根公園等を学習に活かし、地域の教育力を活用しながら体験的な学習を充実させるとともに、多くの人のふれあいを通し、まちや人に親しみをもつことができるようになる。	①六中ブロック学校運営協議会では、学校・地域の取組や子どもの姿を情報共有し、地域全体で子どもを育てる意識を共有した。②地域や企業と連携したりして授業を行うことができたので得られたことも多かった。学校の取り組みを定期的に情報発信していくことで保護者や地域から理解を得られることも増えてきたので今後も継続していきたい。	A
ブロック内評価後の気づき	授業研などを通して学習の充実を図るとともに問題を発見したときに早期に対応し、誰もが安心して豊かに過ごせる学校を目指し取り組んできた。地域ボランティアの方に1年生や家庭科の授業サポートを行っていただき、落ち着いた学校生活を送れる基盤や安全に学習を行う体制を整えることができた。その他、企業や地域とのつながりをもち問題解決学習につながる授業を展開することができたので今後も継続していきたい。	授業研などを通して学習の充実を図るとともに問題を発見したときに早期に対応し、誰もが安心して豊かに過ごせる学校を目指し取り組んできた。地域ボランティアの方に1年生や家庭科の授業サポートを行っていただき、落ち着いた学校生活を送れる基盤や安全に学習を行う体制を整えることができた。その他、企業や地域とのつながりをもち問題解決学習につながる授業を展開することができたので今後も継続していきたい。	ブロック内評価後の気づき
学校関係者評価	地域行事への児童の参加が活発になり、学校や家庭・地域が一体となって子どもの成長を見守ることができた。復活した地域行事への児童の積極的な参加も増えた。今後も継続していきたい。スクールサポーター制度やPTA活動により学校と協力して行事などが運営できたことはよかった。来年度も継続するとともに、協力できる活動をふやしていきたい。PTA活動を活性化させていきたい。	地域行事への児童の参加が活発になり、学校や家庭・地域が一体となって子どもの成長を見守ることができた。復活した地域行事への児童の積極的な参加も増えた。今後も継続していきたい。スクールサポーター制度やPTA活動により学校と協力して行事などが運営できたことはよかった。来年度も継続するとともに、協力できる活動をふやしていきたい。PTA活動を活性化させていきたい。	学校関係者評価

中期取組目標振り返り	持続可能な形で行った行事や学習活動の取り組みを今後も継続していきたい。活発化した地域の特色を生かした学習を学年の系統性を生かして今後は取り組んでいきたい。地域や保護者にも理解を得られるためにも、学校だけでなくHPなどで情報を発信していくことを継続していきたい。
------------	--

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①児童が主体的に学べる課題設定や環境を作れるような具体的な授業作りを目指す。そのために、ICTの活用や今までの教材のファイルの整理など、学校全体のデータの整理を行う。②メンター研修やA・B研でのそれぞれの学びをミライムなどを活用して共有できるようにする。	①児童が主体的に学べる課題設定や環境を作れるような具体的な授業作りを目指す。そのために、ICTの活用や今までの教材のファイルの整理など、学校全体のデータの整理を行う。②メンター研修やA・B研でのそれぞれの学びをミライムなどを活用して共有できるようにする。	B
豊かな心	①研修で積み重ねてきた知識やスキルを学年・学級経営に生かしていけるようブラッシュアップする。②だれもが安心して豊かに学校生活を送れるよう互いの違いや多様性を認め合えるような学校風土を人権週間や日常的な取り組みにより作っていく。	①研修で積み重ねてきた知識やスキルを学年・学級経営に生かしていけるようブラッシュアップする。②だれもが安心して豊かに学校生活を送れるよう互いの違いや多様性を認め合えるような学校風土を人権週間や日常的な取り組みにより作っていく。	A
健やかな体	①日々の体育学習の充実を図り、運動を楽しみ、運動に親しむ子の育成を図る。②中休みの30分を生かし、児童委員会活動を通して、食育や保健教育、体力づくりの機会を充実させる。	①日々の体育学習の充実を図り、運動を楽しみ、運動に親しむ子の育成を図る。②中休みの30分を生かし、児童委員会活動を通して、食育や保健教育、体力づくりの機会を充実させる。	B
協働的な学び	①神橋キャストの一覧をどの教科のどの単元で活用していくかを整理する。また、地域とつながる単元や教科を学校側からも提案し、地域の材を活用できる場を増やす。②今年度もアンケートを実施し、児童の変化に全職員で対応できるようにする。Yの活用をし、子どもたちの協働的な学びの場を設ける。	①神橋キャストの一覧をどの教科のどの単元で活用していくかを整理する。また、地域とつながる単元や教科を学校側からも提案し、地域の材を活用できる場を増やす。②今年度もアンケートを実施し、児童の変化に全職員で対応できるようにする。Yの活用をし、子どもたちの協働的な学びの場を設ける。	A
いじめへの対応	①いじめの未然防止につながるため、毎月アンケートを実施し、児童の状況把握を行い、些細な変化も見逃さない体制づくりをする。②週に1回の打合せで児童の情報共有をし、組織的対応力を常に高めておく。③基本方針に基づき、保護者・関係機関との連携を推進する。	①いじめの未然防止につながるため、毎月アンケートを実施し、児童の状況把握を行い、些細な変化も見逃さない体制づくりをする。②週に1回の打合せで児童の情報共有をし、組織的対応力を常に高めておく。③基本方針に基づき、保護者・関係機関との連携を推進する。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①5年次以下の職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって人材育成のための実践的な校内研修を行っていく。②教務会及び学年主任会の前に、予めミドルリーダー等の意見を吸い上げる機会を積極的に設け、ミドルリーダー等の学校運営への積極的な姿勢を促す。③ICTを活用した事務の効率化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革につなげる。	①5年次以下の職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって人材育成のための実践的な校内研修を行っていく。②教務会及び学年主任会の前に、予めミドルリーダー等の意見を吸い上げる機会を積極的に設け、ミドルリーダー等の学校運営への積極的な姿勢を促す。③ICTを活用した事務の効率化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革につなげる。	B
特別支援教育	①個に応じた特別支援教育を行うために、外部関係機関との連携や講師を招いての研修を実施していく。②チャレンジルームで個に合わせた指導を充実させる。個の特性を生かした学級経営を図る。③教室、言語環境等においてユニバーサルデザイン教育を理解し、学校全体の環境整備にあたる。	①個に応じた特別支援教育を行うために、外部関係機関との連携や講師を招いての研修を実施していく。②チャレンジルームで個に合わせた指導を充実させる。個の特性を生かした学級経営を図る。③教室、言語環境等においてユニバーサルデザイン教育を理解し、学校全体の環境整備にあたる。	B
児童生徒指導	①毎週の打合せで児童の様子を共有するだけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用しながら、指導の方向性を共有し、外部機関との連携を図っていく。②教科担任、交換授業を全学年で実施し、担当職員が児童全員に関わりながら指導にあたる。	①毎週の打合せで児童の様子を共有するだけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用しながら、指導の方向性を共有し、外部機関との連携を図っていく。②教科担任、交換授業を全学年で実施し、担当職員が児童全員に関わりながら指導にあたる。	B
安全教育	①避難訓練、防災訓練、不審者対応訓練の実施の度に事前事後指導の内容を精選し、自分の命や安全を、自ら守るための知識や判断力が身につくような指導を充実させる。②交通安全教室、高学年の着衣泳体験、校外学習での歩き方指導など、様々な機会を各学年に合わせて指導内容を明確にし、指導する。	①避難訓練、防災訓練、不審者対応訓練の実施の度に事前事後指導の内容を精選し、自分の命や安全を、自ら守るための知識や判断力が身につくような指導を充実させる。②交通安全教室、高学年の着衣泳体験、校外学習での歩き方指導など、様々な機会を各学年に合わせて指導内容を明確にし、指導する。	B
地域学校協働活動	①六中ブロック学校運営協議会の効果的に円滑な運営に取り組み、地域や保護者に向けて情報を公開する。②地域の歴史、六角橋商店街、岸根公園等を学習に活かし、地域の教育力を活用しながら体験的な学習を充実させるとともに、まちに貢献していくこととする気持ちをもつことができるようになる。	①六中ブロック学校運営協議会の効果的に円滑な運営に取り組み、地域や保護者に向けて情報を公開する。②地域の歴史、六角橋商店街、岸根公園等を学習に活かし、地域の教育力を活用しながら体験的な学習を充実させるとともに、まちに貢献していくこととする気持ちをもつことができるようになる。	A
ブロック内評価後の気づき	授業研などを通して学習の充実を図るとともに問題を発見したときに早期に対応し、誰もが安心して豊かに過ごせる学校を目指し取り組んできた。地域ボランティアの方に1年生や家庭科の授業サポートを行っていただき、落ち着いた学校生活を送れる基盤や安全に学習を行う体制を整えることができた。その他、企業や地域とのつながりをもち問題解決学習につながる授業を展開することができたので今後も継続していきたい。	授業研などを通して学習の充実を図るとともに問題を発見したときに早期に対応し、誰もが安心して豊かに過ごせる学校を目指し取り組んできた。地域ボランティアの方に1年生や家庭科の授業サポートを行っていただき、落ち着いた学校生活を送れる基盤や安全に学習を行う体制を整えることができた。その他、企業や地域とのつながりをもち問題解決学習につながる授業を展開することができたので今後も継続していきたい。	ブロック内評価後の気づき
学校関係者評価	地域行事への児童の参加が活発になり、学校や家庭・地域が一体となって子どもの成長を見守ることができた。復活した地域行事への児童の積極的な参加も増えた。今後も継続していきたい。スクールサポーター制度やPTA活動により学校と協力して行事などが運営できたことはよかった。来年度も継続するとともに、協力できる活動をふやしていきたい。PTA活動を活性化させていきたい。	地域行事への児童の参加が活発になり、学校や家庭・地域が一体となって子どもの成長を見守ることができた。復活した地域行事への児童の積極的な参加も増えた。今後も継続していきたい。スクールサポーター制度やPTA活動により学校と協力して行事などが運営できたことはよかった。来年度も継続するとともに、協力できる活動をふやしていきたい。PTA活動を活性化させていきたい。	学校関係者評価

中期取組目標振り返り	持続可能な形で行った行事や学習活動の取り組みを今後も継続していきたい。活発化した地域の特色を生かした学習を学年の系統性を生かして今後は取り組んでいきたい。地域や保護者にも理解を得られるためにも、学校だけでなくHPなどで情報を発信していくことを継続していきたい。
------------	--